

目次

第一章 基本を学ぼう

バックアップの基本

RDX はどんなバックアップに向いている？	02
バックアップしていないとどうなるの？	03
確実なバックアップを行うには？	05

RDX とは？

RDX が便利な理由	07
RDX 設計のヒミツ	09
普通の外付 HDD と何が違うの？	10

バックアップの種類

RDX でどんなバックアップができるの？	11
おすすめのソフトウェア	13

第二章 バックアップ手順

Windows のバックアップ機能を使ったバックアップ	15
Windows 転送ツールでデータを移行する	26

第三章 導入事例

RDX の運用例・導入事例	35
---------------	----

取扱製品	37
------	----

RDX はどんなバックアップに向いている？

BCP(事業継続計画)

災害などの緊急事態に事業をストップさせないために



まだ記憶に新しい東日本大震災では、多くの企業が甚大な被害を受け
人材・設備やシステムを失い事業の継続に頭を悩ませました。

RDX でシステムデータのバックアップを行うことにより、データを物理的に
外部に保管することも可能なので災害対策も兼ねたバックアップが行えます。

詳細は P.03→

テープからディスクへ

終息傾向の DAT や DDS の代替として RDX へ

RDX は、DAT や DDS の代替を主な目的として開発されました。
テープのように頑丈で可搬性があり、また HDD の利点である
高速転送・ランダムアクセス性能も兼ね備えています。

詳細は P.07→

サポート終了 OS 対策

Windows XP や Windows Server2003 のデータ転送に

Windows XP や Windows Server2003 のようにサポート終了 OS のデータを
転送する際にも RDX をご使用いただけます。

転送・データの移行が完了後は日々のバックアップ用として活躍します。

詳細は P.11→

バックアップの基本

バックアップしていないと どうなるの？

パソコンやサーバーが突然クラッシュして起動しなくなった…

データが全部消えてしまった…など、経験したり人から聞いたりしたことはありませんか？

まだ大丈夫と思っていても、予期せぬトラブルは突然起こったりするものです。

とても身近に起こりうることなのです



システム障害！？そのときバックアップデータがないと…

■ 業務停止

■ 多大な時間ロス

■ 多大なコストをかけて復旧…

■ 最悪の場合復旧不能で大事なデータを消失

なんと…
システム障害の半数が
不慮の事故

企業におけるシステム障害の原因で、約半数を占めるのが予期せぬハードウェアの故障や震災などによる「不慮の事故」であると言われています。

その他にも人為的ミスやソフトウェアの不具合など、システムにはトラブルがつきものです。

そんな突然のトラブルでも事業を長時間停止させず復旧させるには、バックアップが鍵となります。

バックアップ、こんな失敗したことありませんか？

失敗 USB や DVD にデータを入れていたけど、紛失してしまった
取扱が簡単で持ち運びに便利な USB や DVD ですが、紛失による情報漏えいや、USB メモリを通してウイルス感染する被害も出ています。

失敗 バックアップデータを保存していた外付 HDD が
床に落下し壊れてしまった
簡単で手軽なコンシューマー向け外付 HDD ですが、落下などの衝撃による破損やディスクの故障など、突然トラブルに見舞われることも多いようです。

失敗 バックアップデータを保存しているフォルダをクラウドと
同期していたけど転送に失敗していた
手軽に利用できるクラウド・ストレージ。しかしファイルのアップロードが正常に行われていなかったり環境によっては非常に時間がかかることも。

失敗 パーティションで区切られた D ドライブをバックアップの
保存先にしていたけど、ディスクそのものが壊れた
メーカーにもよりますが、PC 出荷時にパーティションで区切られた D ドライブが存在し、そこにバックアップを取っていた場合
実際には C ドライブと同一のディスクなので一気に故障してしまいます。

バックアップの基本

確実なバックアップを行うには？

それでは、システムトラブルに見舞われたときや災害時に業務を継続させるためのバックアップの行い方はどのようなものなのでしょうか？

1 世代管理

直近のバックアップデータがあれば、最新の状態に復元することが可能ですが例えば数日前にウイルスに感染してしまっていたらどうでしょう？

感染より以前の状態に復元する必要があります。

任意の時点の状態に復元できるようにバックアップデータを管理することを世代管理といいます。



2 遠隔地保管

せっかくシステムのバックアップを行っていても、システムやバックアップデータそのものが被災してしまうと復旧は困難です。

バックアップデータを外部に保管することでこのような事態を回避することができます。



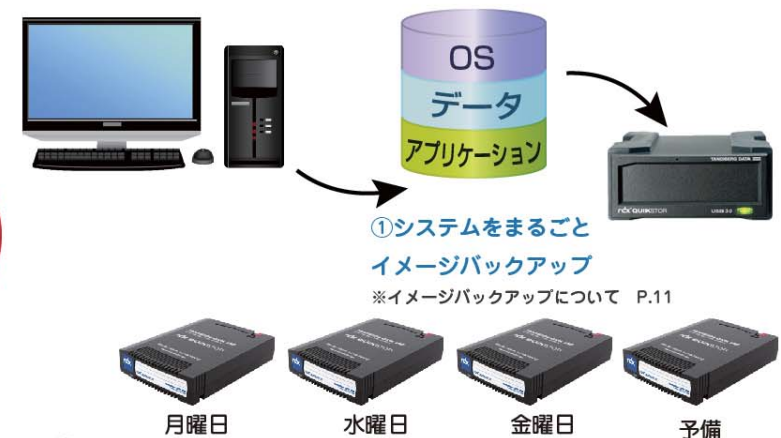
3 データ管理の安全性

会社の重要なバックアップデータですから、データ管理は慎重に行う必要があります。然るべき権限を持った人による物理的安全性の確保も検討しましょう。

RDX で実現できます



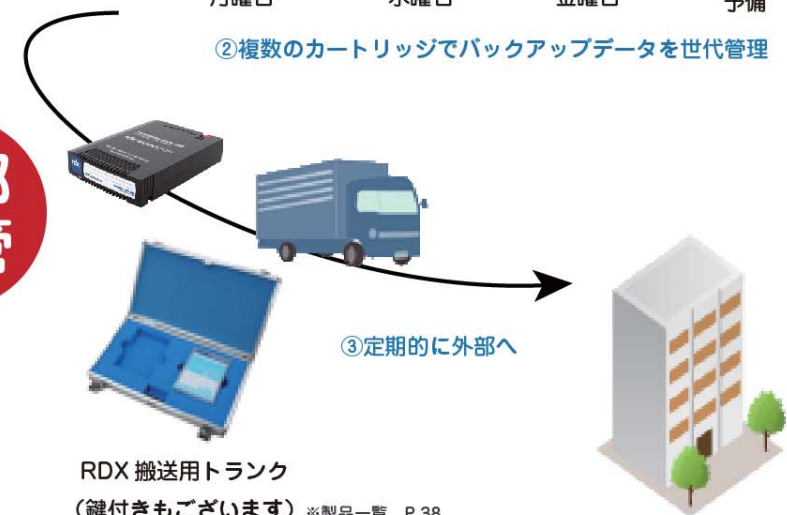
世代管理



①システムをまるごとイメージバックアップ

※イメージバックアップについて P.11

外部保管



③定期的に外部へ

RDX 搬送用トランク
(鍵付きもございます) ※製品一貫 P.38

RDX とは？

RDX が便利な理由

RDX は、Removable Disk Exchange System の略で、
現在多くのサーバーメーカーに標準採用されているバックアップシステムです。

TAPE

テープの良いところ

- ポータビリティ
- 頑丈なカートリッジ
- 低コスト

DISK

ディスクの良いところ

- ランダムアクセス性能
- 高い転送レート
- 信頼性

RDX はテープとディスクのイイトコ取り！

準備がカンタン

外付けタイプの RDX ドライブは
USB ケーブルで接続するだけで
OS から認識されます。

操作がカンタン

接続するだけで
リムーバブルディスクとして認識
されるので、普段使っている HDD
と同じようにドラッグ&ドロップ
でのコピーや移動も簡単です。



各容量カートリッジとドライブは完全互換

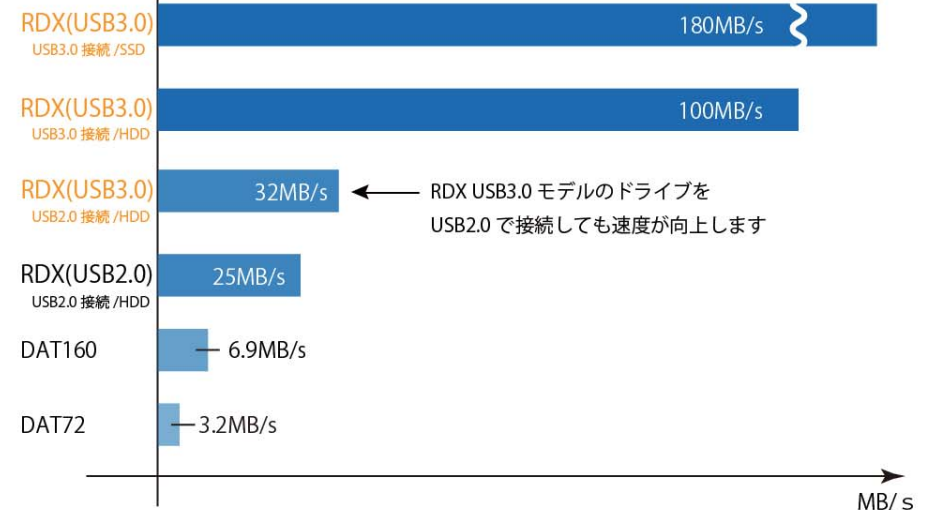
320GB 500GB 1TB 1.5TB 2TB

将来



RDX は 1 つのドライブで全容量のカートリッジが使用可能
将来大容量のカートリッジを導入しても継続して使えます

USB3.0 により高速転送を実現



※転送速度はシステム環境、ご使用のカートリッジや容量により異なります。

RDX とは？

RDX 設計のヒミツ

頑丈！

RDX カートリッジ専用のショックマウント（衝撃吸収材）で、HDD を振動・衝撃から守っています。

落下テストでは
コンクリート上に
様々な角度から
1500 回以上
落とします

ショックマウントの素材は粘弾性材料。
高さ 1 メートルからの落下にも 99.5% 以上の
確率で耐えるよう設計されています。

上書き防止
スイッチ



静電気から HDD を守る！

普通の外付 HDD と何が違うの？

使用方法はほぼ同じで、USB で繋ぐだけで OS に認識されます。
RDX は HDD 内蔵のカートリッジを交換して使用します。

一般的な
外付 HDD

＜コンシューマー向け製品＞
テレビに繋げて番組を録画したり
パソコンのデータ保存に。
一般向けに広く普及しています。



どんな環境
でも同じように
使用できます

RDX

＜企業・団体向け製品＞
サーバーやワークステーションの
システムバックアップ向け。
耐久性・可搬性に優れています。



環境によって
規模や仕組み
を選べます

※RDX ドライブにはサーバー内蔵型・ラックマウント型・オートメーションもあります



堅牢性



落下や静電気に強い



可搬性



カートリッジは小型軽量で持ち運びに便利



拡張性



カートリッジの交換で大容量化も



価格



近年の大容量低価格化でとても手軽

バックアップの種類

RDX でどんなバックアップができるの？

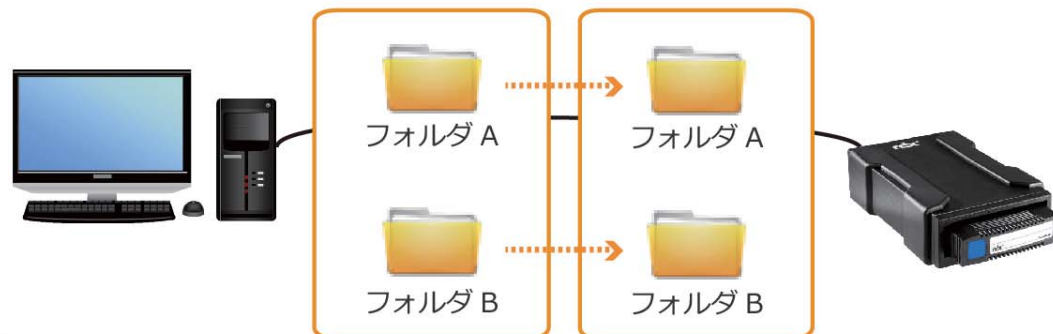
RDX でできるバックアップは多岐に渡りますが、大きく分けて 2 種類あります。
目的と環境に合った方法を選択しましょう。

1 イメージバックアップ



2 データ単位バックアップ

任意のフォルダのデータを RDX にバックアップ。
手動でもできますが、専用ツールでスケジュールを組み自動バックアップするのが良いでしょう。



ソフトウェアを使ったバックアップ

RDX は各メーカーの主要バックアップソフトの動作確認の認証を受けています。
認定ソフトウェアの一覧は P.13 をご覧ください。
また、詳しい操作方法是ソフトウェアによって異なりますので、メーカーのマニュアルをご参照ください。

詳細は P.13→

Windows 標準のバックアップ機能を使用する



RDX は Windows に標準搭載されているバックアップ機能に対応しています。
Windows のバックアップ機能を使えば、専用のソフトウェアなしでもスケジュールを組んだイメージバックアップを RDX に取得することができます。
ひとまず Windows バックアップを使用し、運用していく中でソフトウェアの必要性が出てきたら切り替えを行うのも手かもしれません。

詳しい操作手順は P.15→

Windows 転送ツールでの OS 間データ移行にも

Windows XP や Windows Server2003 などサポート終了 OS から新 OS へのデータ移行の際にも RDX をご使用いただけます。
本誌では、Windows 転送ツールでデータ移行する際の操作方法をご紹介します。

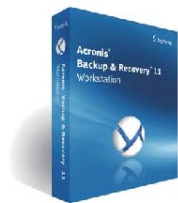


詳しい操作手順は P.26→

おすすめソフトウェア

RDX の特徴の一つとして、幅広いソフトウェアのサポートがあります。
ソフトウェアと組み合わせて使用することで、更に便利にバックアップ運用ができます。

アクロニス・ジャパン株式会社



Windows や Linux の OS 混在環境だけでなく、物理環境や仮想環境に対しても同一のインターフェースを通じて包括的なバックアップと復元が可能。

- Backup & Recovery

認証済	Tandberg data	imation
	✓	✓

日本 CA 株式会社



CA ARCserve シリーズは、日本市場 NO.1 の導入実績を誇るバックアップ / リカバリソフトウェア。物理環境はもちろん、仮想環境も簡単にバックアップ。

- ARCserve BACKUP
- ARCserve D2D

認証済	Tandberg data	imation
	✓	✓

パラゴンソフトウェア株式会社



一般的なイメージバックアップ手法はもちろん、製品のインストールも OS の再起動も必要ない「フラットバックアップ」を新たに加えた高性能ツール。

- Paragon Drive Backup Server

認証済	Tandberg data	imation
	✓	

デル・ソフトウェア株式会社



vRanger はひとつの製品でバックアップとレプリケーションの両方が行える VMware 専用のデータ保護ソフトウェア。VMware の高速なバックアップとリストアを実現。

- vRanger

認証済	Tandberg data	imation
	✓	

株式会社アール・アイ



社内の PC やファイルサーバー上での上書き保存など、ファイルの変化を自動検知し、リアルタイムにバックアップする純国産のソフトウェア。

- Secure Back
- Air Back

認証済	Tandberg data	imation
	✓	✓

株式会社ラネクシー



高速処理と使いやすさに定評のあるイメージバックアップソフトウェア。万が一の際は、迅速且つ信頼性の高い復旧機能でダウンタイムを最小限に。

- ShadowProtect

認証済	Tandberg data	imation
	✓	

株式会社シマンテック



データもシステムも丸ごとバックアップし、障害時には簡単・高速にリストアすることで、迅速な障害復旧を実現できます。

- Backup Exec
- NetBackup

認証済	Tandberg data	imation
	✓	✓

株式会社シナジー

Archware 社の ARCHIWARE P5 (アーキウェア ピーフाइブ) クロスプラットフォーム、クロスネットワーク対応のデータマネジメント & データセキュリティソリューション。

- ARCHIWARE P5 (アーキウェア ピーフाइブ)

認証済	Tandberg data	imation
	✓	

ウルトラバック・ソフトウェア

UltraBac (ウルトラバック) は、ファイルバックアップを実行する「Ultrabac」と、イメージバックアップができる「UBDR GOLD」によって毎日のファイルバックアップから万が一に備えるディザスタリカバリまでを一元管理。

- Ultrabac
- UBDR GOLD

認証済	Tandberg data	imation
	✓	

バックアップ手順

Windows バックアップ手順

Windows に標準搭載されているバックアップ機能を使って、スケジュールを組んだバックアップの方法をご紹介します。

タンベルグデータ社製 USB3.0 RDX ドライブなら、Windows に標準搭載されているバックアップ機能を使って、RDX でスケジュールバックアップができます。ここではファームウェアの更新、ドライブの設定も併せてご紹介します。

- ＜例＞ ■ バックアップ対象…クライアント PC (OS:Windows7 Professional)
■ ストレージデバイス…タンベルグデータ USB3.0 外付 RDX ドライブ
■ バックアップスケジュール…平日毎日 12:00 ～

※タンベルグデータの RDX ドライブでスケジュールバックアップを行うには、ドライブのファームウェアが Ver.2.05 以上である必要があります。

1 ドライブの FW の Ver 確認や更新に必要な「RDX Utility」をインストールする

既にインストール済の方は **2** へ

- ① それではまず、タンベルグデータの WEB サイトにアクセスして最新のユーティリティを DL します。アクセスしたページの右側にあるメニュー一覧から [Downloads] をクリック。このページの一番下の [RDX_Utility.zip] をクリックして、デスクトップなど任意の場所に保存。URL : <http://www.tandbergdata.com/jp/index.cfm/products/removable-disk/rdx-quikstor/>

タンベルグデータの RDX[®] QuikStor™

DOWNLOADS

FILENAME	DESCRIPTION	VERSION	TYPE
RCE Software Download	Software for RDX Cartridge Encryption	N/A	
0044_sata.zip	Firmware for RDX, SATA version.	044	Firmware
2040_extusb.bip	RDX firmware for External USB 2.0 Docks	2040	Firmware
3040_intusb.bip	RDX firmware for Internal USB 2.0 Docks	3040	Firmware
RDX2E_STD__F-0205.bin	RDX firmware for External USB 3.0 Docks	2.05	Firmware
RDX2I_STD__G-0205.bin	RDX firmware for Internal USB 3.0 Docks	2.05	Firmware
RDX_Utility.zip	RDX QuikStor Utility and Tools (supports USB 3.0)	1.54	Utility

- ② DL した zip ファイルを解凍すると、以下のファイルが入っています。

- Autorun.inf
- InstallRDX.exe
- setup.exe

この中の [setup.exe] をダブルクリックします。

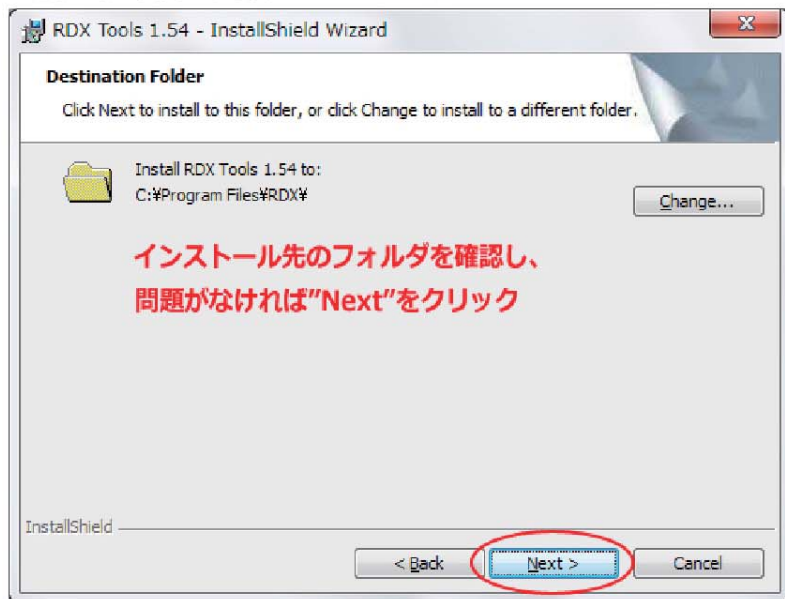
- ③ インストール画面が立ち上がりますので [Next] をクリック。

- ④ 任意のユーザー情報を入力し [Next] をクリック。

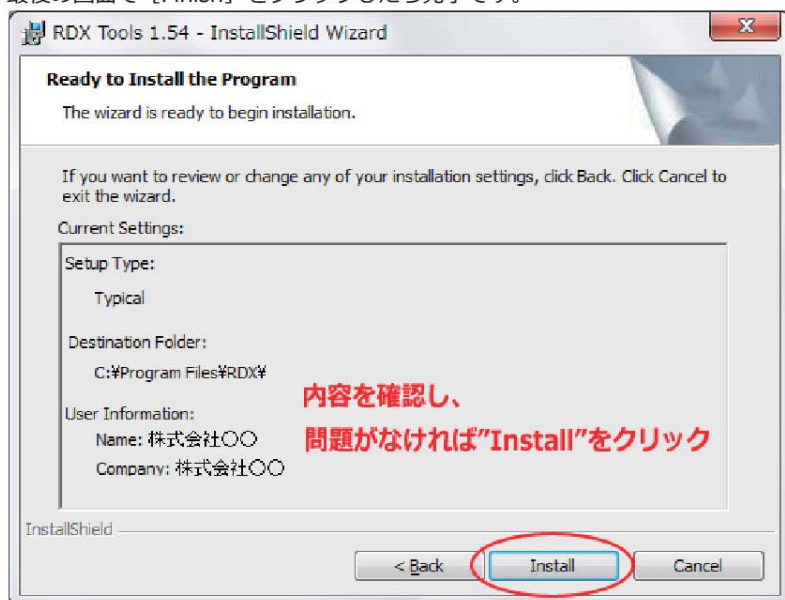
→次のページへ

バックアップ手順

- ⑤ インストール先のフォルダの確認をして問題がなければ「Next」をクリック。
※通常は特に変更する必要はございません。



- ⑥ 各設定内容を確認し、問題がなければ「Install」をクリックし、最後の画面で「Finish」をクリックしたら完了です。



2 ファームウェアのバージョンを確認する

- ① Windows のスタートメニューから 1 でインストールした「RDX Utility」を起動します。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [RDX] → [RDX Utility]

- ② RDX Utility を起動すると、下記のような画面が表示されます。
接続されている RDX の状態が表示されているので「Device FW Rev」という項目の 4 桁の数字がファームウェアのバージョン情報です。



＜バージョンの確認をしてみましょう＞

- 0110 の方…Ver.1.10 →ファームウェアの更新が必要です。 3 へ。
- 0205 の方…Ver.2.05 →ファームウェアの更新は不要です。 4 へ。

ポイント

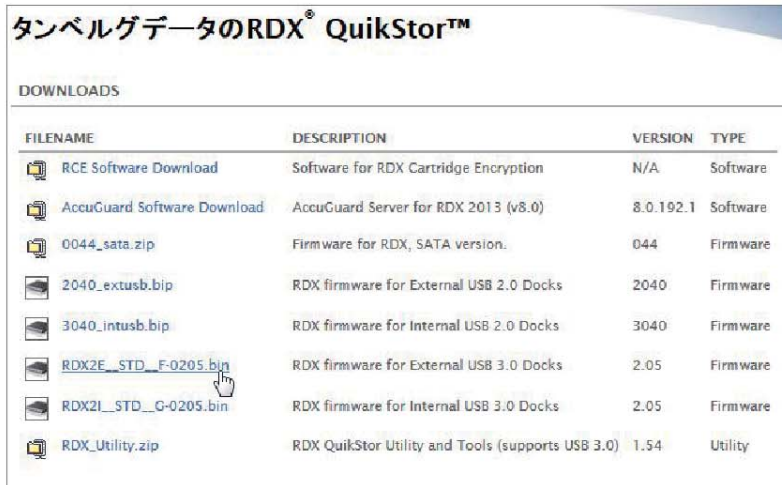
何のためにファームウェアを更新するの？

Windows のバックアップ機能は、Windows Server 2008 以降スケジュールを組んだバックアップの保存先としてリムーバブルディスクのサポートを終了しました。
これにより、通常リムーバブルディスクとして OS に認識される RDX は Windows のバックアップでスケジュール設定をすることができませんでした。しかし RDX ドライブのファームウェア更新により RDX を固定ディスク（ハードディスクドライブ）として認識させることのできる機能が追加されました。この固定ディスクモードを設定できるのが Ver.2.05 以降になります。

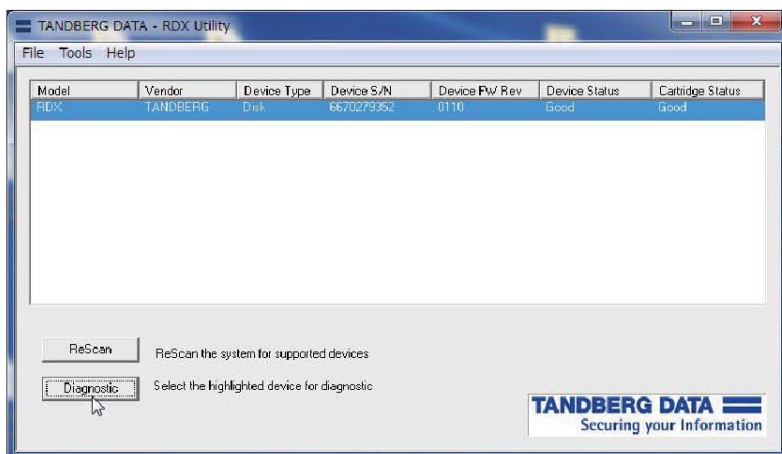
バックアップ手順

3 ドライブのファームウェアを更新する

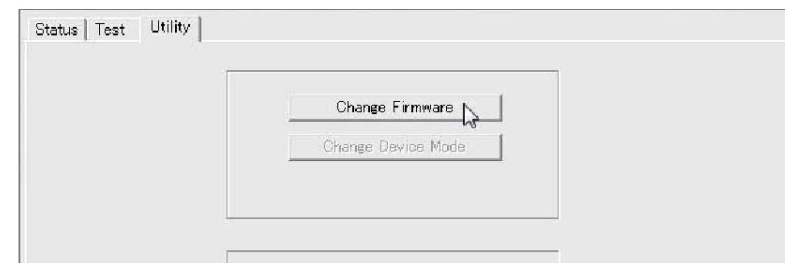
- ① タンベルグデータの WEB サイトにアクセスして最新のファームウェアを DL します。
アクセスしたページの右側にあるメニュー一覧から [Downloads] をクリック。
下から 3 番目の [RDX2E__STD__F-0205.bin] をクリックしデスクトップなど任意の場所に保存。
URL : <http://www.tandbergdata.com/jp/index.cfm/products/removable-disk/rdx-quickstor/>



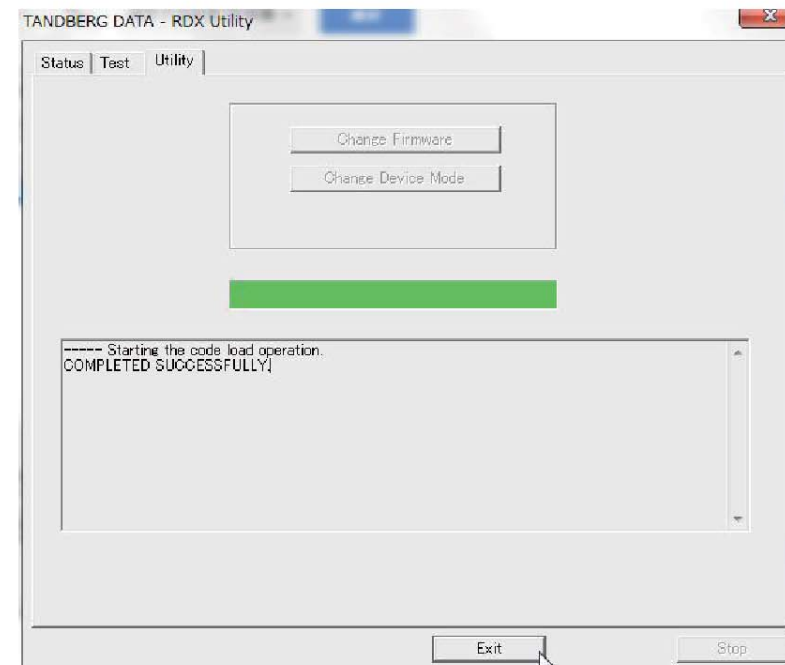
- ② RDX Utility を起動します。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[RDX]→[RDX Utility]
[Diagnostic] というボタンをクリック。



- ③ [Utility] タブを開いて、[Change Firmware] というボタンをクリック。
ファイルの選択画面が出るので、DL したファームウェアのファイルを選択して開く。
自動的にファームウェアの更新が始まります。



- ④ 更新が完了したら以下のような画面になりますので [Exit] をクリックして完了です。



バックアップ手順

4 ドライブを固定ディスクモードにする

ポイント

なぜ固定ディスクモードにするの？

RDX は通常、リムーバブルディスクとして OS に認識されるデバイスです。

ところが Windows Server2008 以降のバックアップ機能ではスケジュールバックアップの保存先としてリムーバブルディスクをサポートしていません。

前項目で更新した Ver.2.05 のファームウェアでは、Windows バックアップ専用モードである固定ディスクモードが追加されました。それにより一般的な外付 HDD のように固定ディスクとして OS に認識させることができるようになり、Windows バックアップ機能を制限なく使用できます。

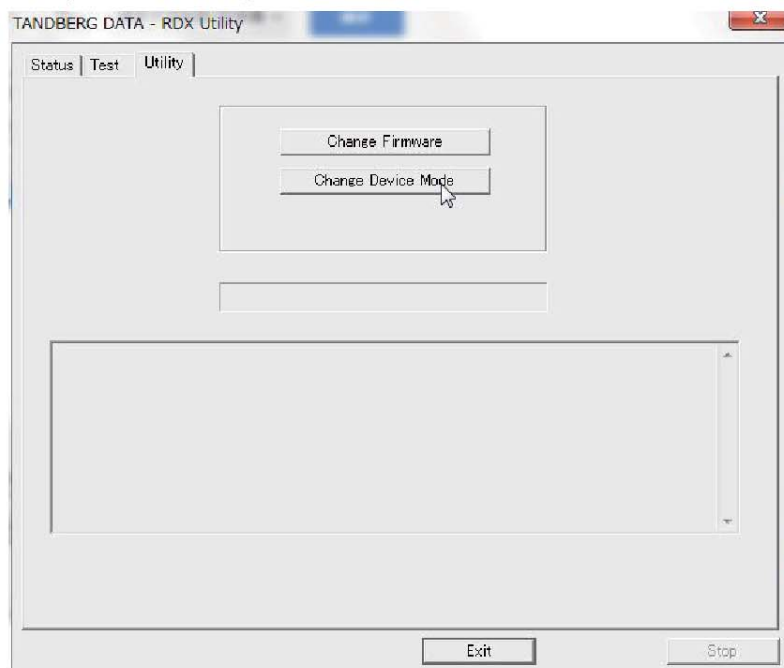
⚠ モード変更操作の前に接続済の RDX ドライブからカートリッジを外しておきます。

① RDX Utility を起動します。

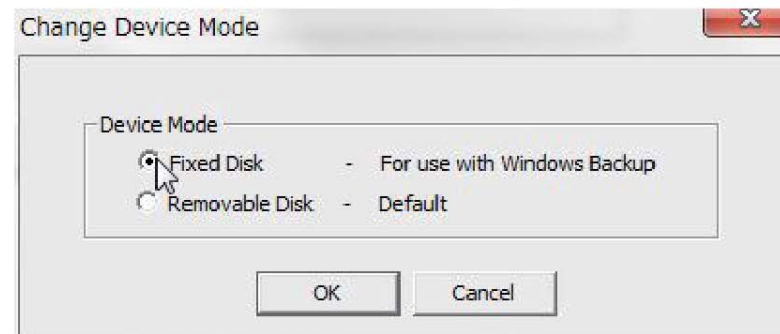
[スタート]→[すべてのプログラム]→[RDX]→[RDX Utility]

[Diagnostic] というボタンをクリック。

② [Utility] タブの [Change Device Mode] をクリック。



③ モードの選択をします。固定ディスクモード [Fixed Disk] にチェックして [OK] をクリック。
以上でファームウェアの更新、ドライブのモード変更が完了です。



④ カートリッジをドライブに挿入し、固定ディスクとして認識されているか確認してみましょう。[スタート]→[コンピューター] を開きます。



RDX が、「ハードディスクドライブ」の欄に表示されていたら、成功です。
お疲れ様でした。

いよいよ、Windows のバックアップ機能の設定を行います。

バックアップ手順

5 Windows のバックアップ機能の設定

この項目では、Windows に標準搭載されているバックアップ機能と RDX を使って、スケジュールを組んだバックアップの設定方法をご紹介します。
システム環境や会社方針もに基づき、最も最適なスケジュールを組みましょう。

① コントロールパネルを開きます。

"システムとセキュリティ" のメニューで [バックアップの作成] をクリック。

※アイコン表示にしている場合は "バックアップと復元" をクリック。



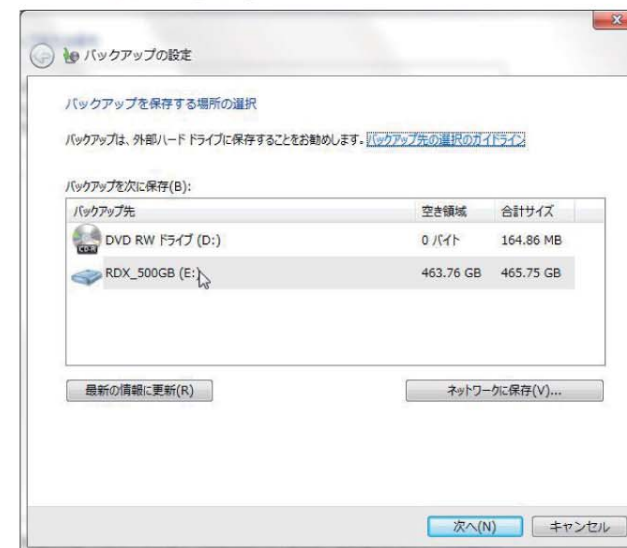
② Windows バックアップを初めて使用する場合以下のような画面が表示されます。

この画面で [バックアップの設定 (S)] をクリック。



③ バックアップでのデータを保存する場所を選択する画面です。

RDX を選択して [次へ] をクリック。



④ バックアップ対象を決めます。[自動選択 (推奨)] または [自分で設定する] にチェック。

[次へ] をクリックします。

※自動選択 (推奨) をすると、ブート・ドライブ (C:) 上にあるライブラリやデスクトップ、

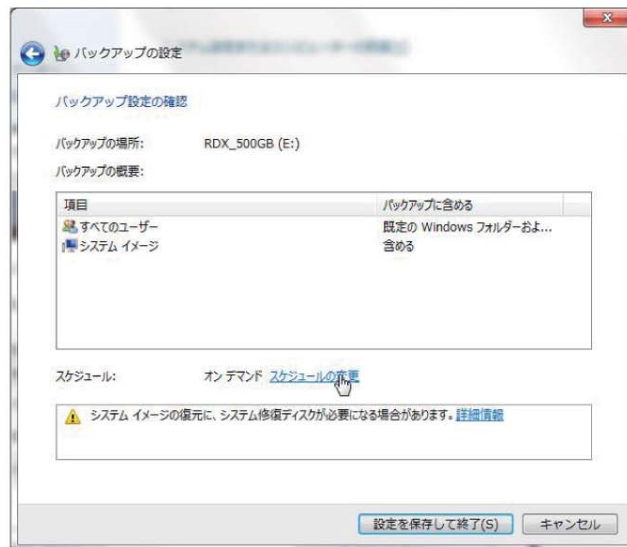
各種データ・フォルダ、およびシステム・イメージがバックアップされます。

システムイメージについては、P.11 の「イメージバックアップ」をご参照ください。

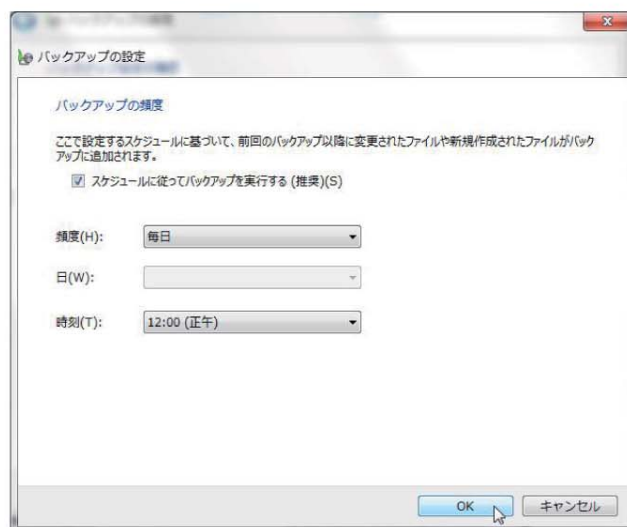


バックアップ手順

- ⑤ バックアップの設定確認の画面でバックアップ先、バックアップ対象の設定を確認します。
問題がなければ、画面内の「スケジュールの設定」をクリック。



- ⑥ バックアップを取得するタイミングをスケジュール登録し「OK」をクリック。



- ⑦ 「設定を保存して終了」をクリックして完了です。

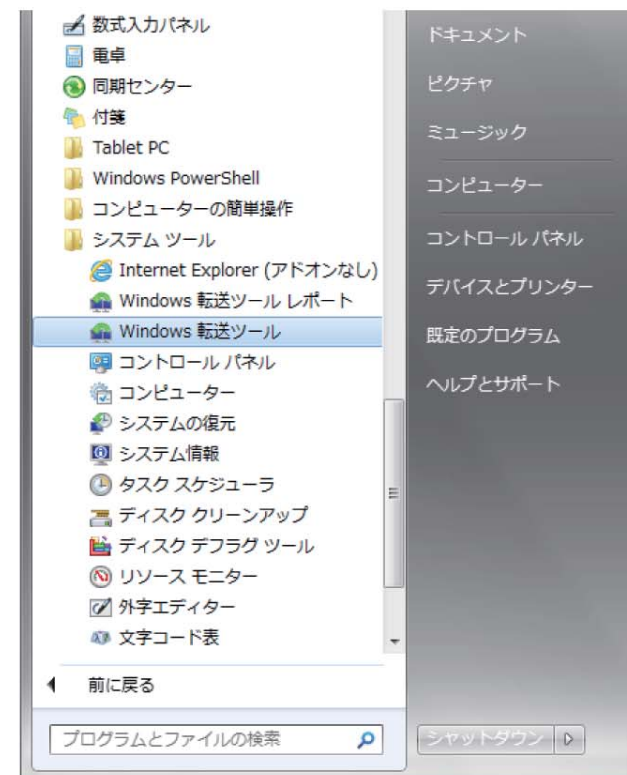
設定したスケジュール通りにバックアップが行われます。

Windows 転送ツールでデータを移行する

Windows7 に搭載されている「Windows 転送ツール」を使用すれば、XP などの PC のデータやアカウント情報を簡単に移行することができます。
ここでは、Windows XP から Windows 7 への移行方法をご紹介します。

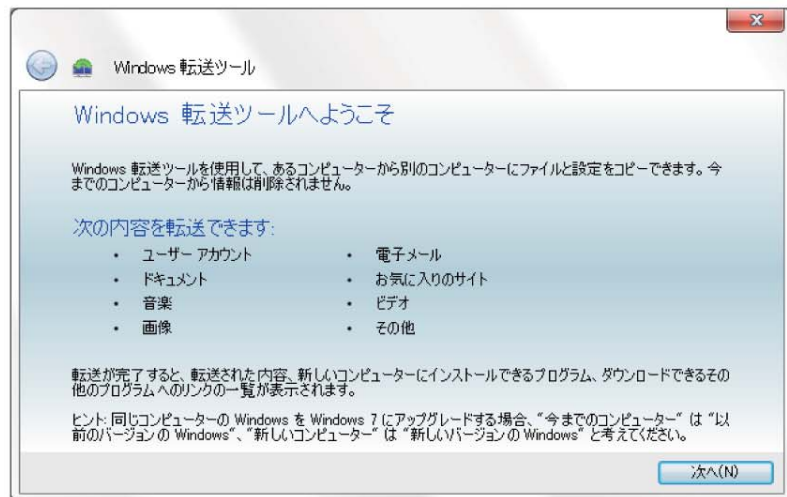
1 Windows 転送ツールを RDX にコピーする

- ① Windows XP には Windows 転送ツールが備わっていないので、まず XP でツールを使用するために、RDX にツールをコピーします。Windows 7 に RDX を接続しておきましょう。
- ② Windows 7 の Windows 転送ツールを起動します。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[Windows 転送ツール]

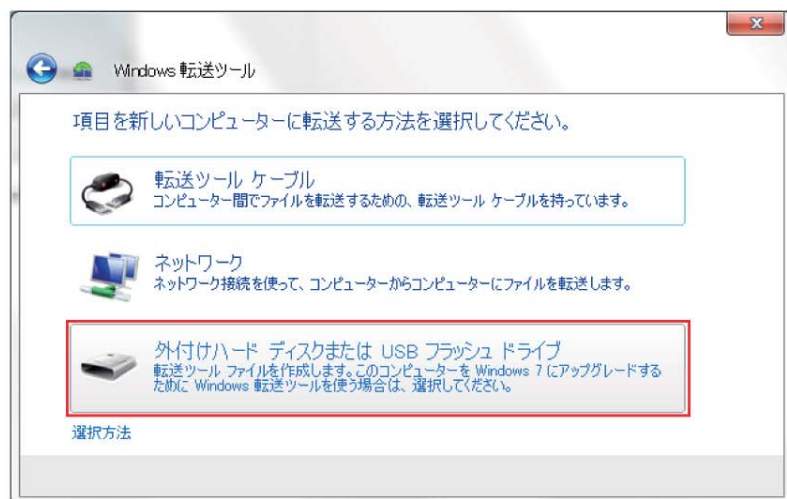


バックアップ手順

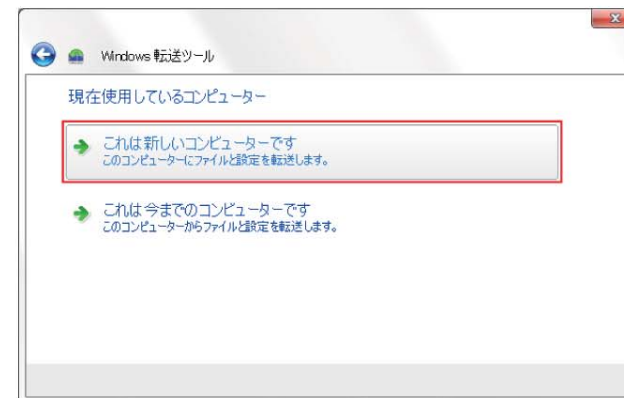
- ③ Windows 転送ツールが起動します。最初の画面では転送内容が表示されますので、確認して「次へ」をクリック。



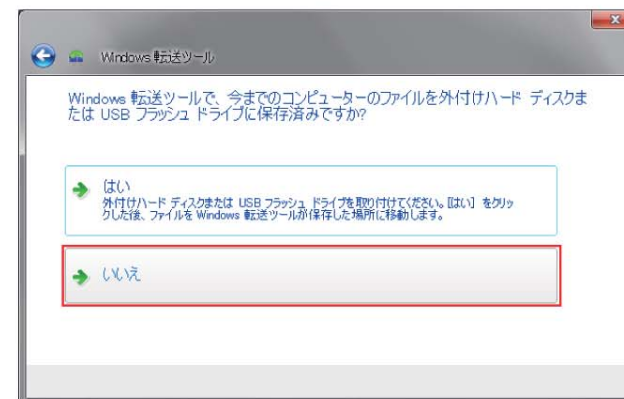
- ④ 転送方法の選択では、「外付けハードディスクまたは USB フラッシュドライブ」をクリック。



- ⑤ 現在使用しているコンピューターでは「これは新しいコンピューターです」をクリック。



- ⑥ まだ RDX には XP のデータを保存していないので「いいえ」をクリック。

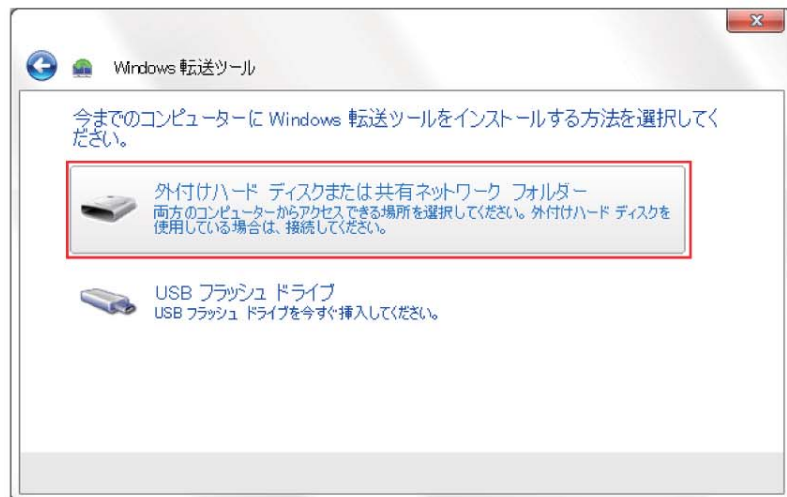


- ⑦ XP に Windows 転送ツールをインストールするために「ここでインストールする必要があります」をクリック。

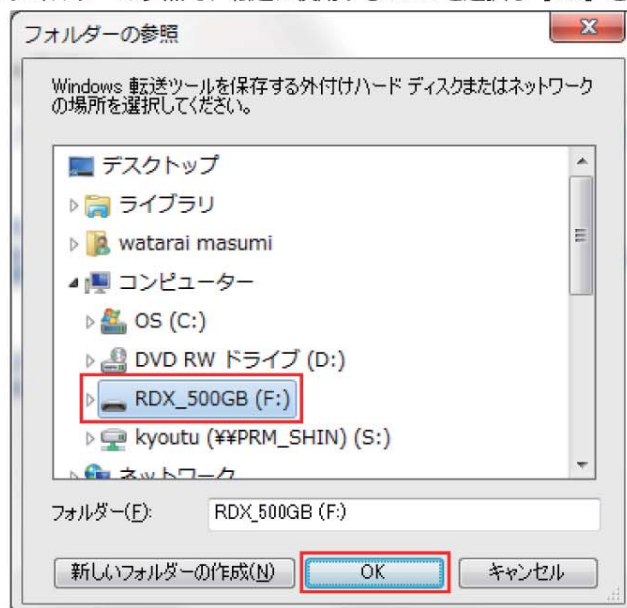


バックアップ手順

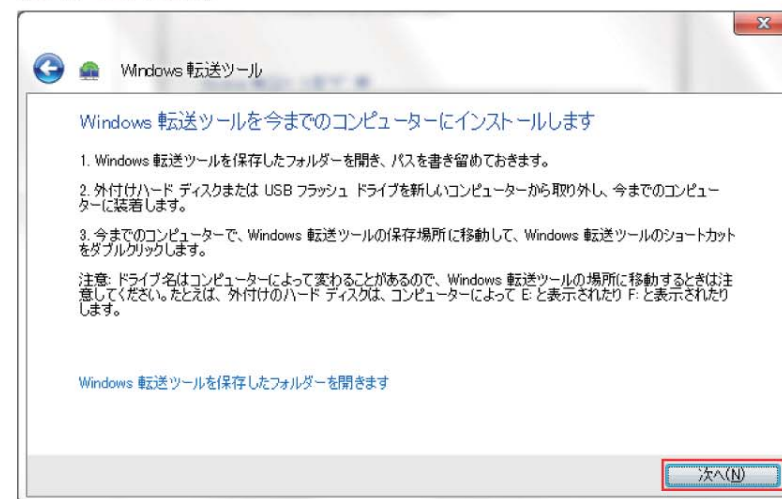
- ⑧ インストール方法の選択では「外付けハードディスクまたは共有ネットワークフォルダー」をクリック。



- ⑨ フォルダーの参照で、転送に使用する RDX を選択し [OK] をクリック。



- ⑩ 選択した RDX に Windows 転送ツールのコピーが開始され、下記の画面が表示されたら [次へ] をクリック。



- ⑪ 以上で RDX への Windows 転送ツールのコピーは完了しました。
再度今までのコンピューターのファイルを保存済みか聞かれますが、× ボタンで終了します。

- ⑫ 現在のコンピューターから RDX を取り外し、古いコンピューター (Windows XP) に接続します。

2 へ進みましょう。

バックアップ手順

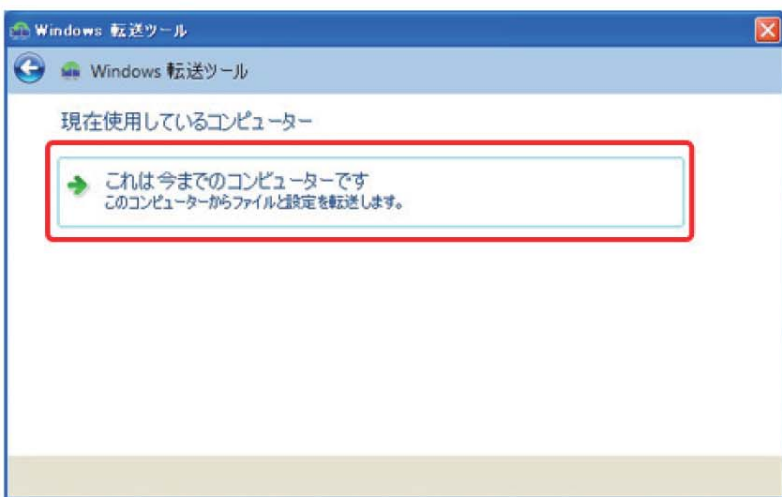
2 Windows XP のデータを RDX にコピーする

RDX に保存した Windows 転送ツールを使って、古いコンピューター（Windows XP）のデータを RDX に保存します。XP のコンピューターに RDX が接続されていることを確認しましょう。

- ① Windows XP に RDX を接続し、マイコンピューターからディスクの中身を表示させます。
Windows 転送ツールというショートカットがありますので、これをダブルクリック。



- ② Windows 転送ツールが起動します。
先程と同じように進めていき、現在使用しているコンピューターで「これは今までのコンピューターです」を選択します。

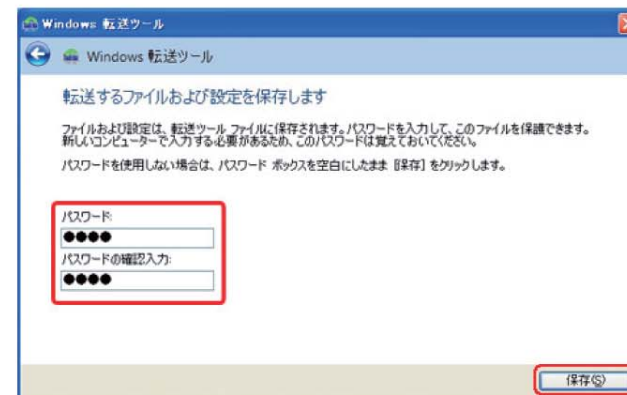


- ③ 転送可能なアカウント一覧が表示されます。転送したいアカウントのチェックボックスをオンにし「次へ」をクリック。

※ここでカスタマイズをクリックすると、詳細な転送内容をカスタマイズできます。



- ④ パスワードの設定を求められます。移行するデータには個人情報が含まれることがあるので、必ずパスワードを設定しましょう。



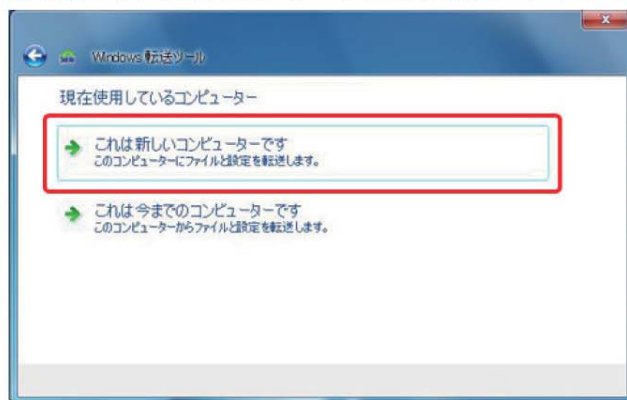
- ⑤ ファイルの保存先に RDX を選択し、保存をすると転送アカウントのファイルの保存が始まります。すべての保存が完了したら画面に従って進み転送ツールを終了します。
これで Windows XP の転送データを RDX に保存できました。

3 へ進みましょう。

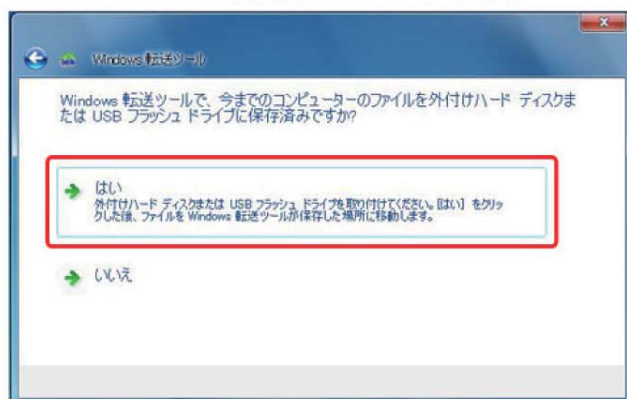
バックアップ手順

3 Windows 7 にデータを移行する

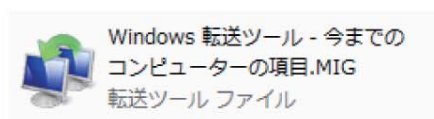
- ① データを移行させたい Windows 7 のコンピューターに RDX を接続し、再度 Windows 転送ツールを起動させます。
現在使用しているコンピューターで「これは新しいコンピューターです」を選択。



- ② RDX に XP のデータを保存済なので「はい」を選択。



- ③ 転送データを選択する画面では RDX を選択し、「Windows 転送ツール - 今までのコンピューターの項目 .MIG」というファイルを選択し「開く」をクリック。

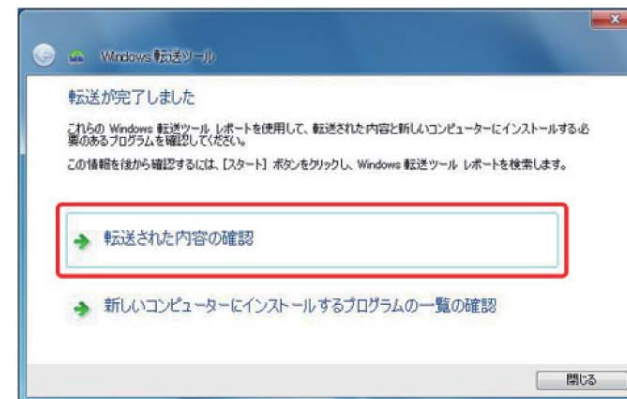


- ④ 先程、データ保存時に設定したパスワードを入力し「次へ」をクリック。

- ⑤ Windows XP で使用していたアカウントの一覧から、データを移行したいアカウントのチェックボックスをオンにし「転送」をクリック。



- ⑥ 転送が完了すると、以下の画面になります。そのまま終了する場合は「閉じる」をクリック。「転送された内容の確認」をクリックすると、転送内容が確認できます。



以上で Windows XP のデータの Windows 7 への転送が完了です。

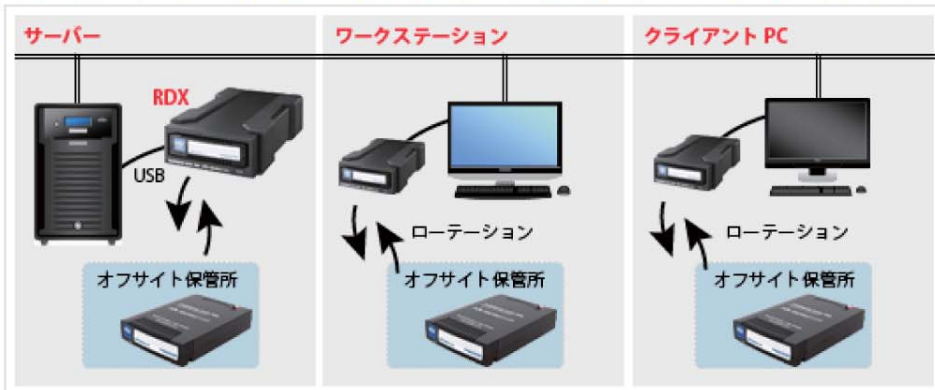
導入事例

RDX の運用例

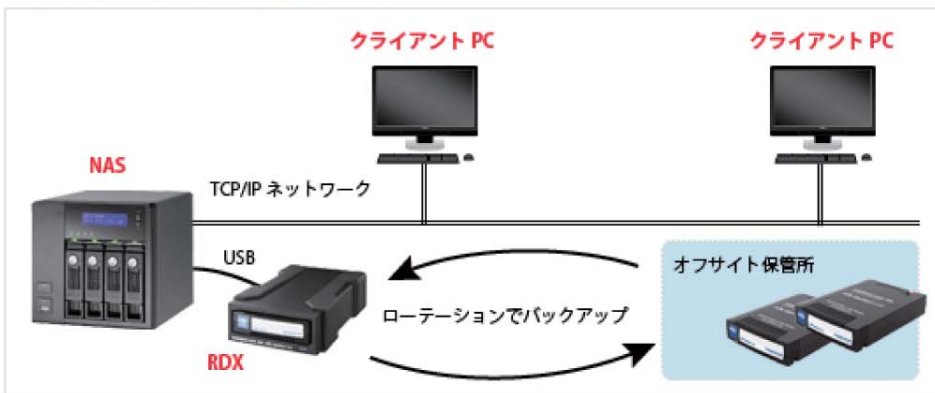
RDX は様々な環境でご使用可能ですが、具体的にどのように運用できるのでしょうか。
代表的な例を挙げてご紹介します。

複数の RDX データカートリッジでローテーションバックアップ体制にすれば、
常に直近のバックアップデータを外部に保管することができます。
自然災害やシステム障害など万が一の事態が発生しても、外部保管のバックアップデータで
素早く簡単にリストアができるので、事業をストップさせるリスクを軽減します。

サーバー、ワークステーション、クライアント PC のバックアップ



NAS データのバックアップ



導入事例

歯科診療所のあらゆる情報を デジタル化して一元管理、 バックアップは RDX

データ量の増加

歯科医ナリン氏は、今までに7万人近い患者を治療してきました。患者の個人情報、レントゲン画像、会計記録、事業に関する書類等、コンプライアンス遵守のために一定期間保管・管理しなければならないデータは増える一方ででした。自然災害や装置の故障、人為的ミスによってデータを喪失したことにより、業務が中断し事業が継続できなくなった企業も多く存在します。
ナリン氏は、システムインテグレータの協力を得て自社に必要なデータ保護システムを決定しました。

完全デジタル化で時間とコストを節約

ナリン氏が選んだのは RDX QuikStor。大容量のカートリッジは持ち運びが可能であり、将来扱うデータが増えても装置の買い替えが必要ないので、コストセーブできることが決め手でした。データ量の増加と法規制の両方に対応するため、ナリン氏の診療所では、患者情報、レントゲン画像データ等、全情報をデジタル化しました。コダックのデジタル X 線センターで撮影されたレントゲン画像は、各診療室に設置されたワークステーションに格納され、サーバーで共有・管理されます。撮影画像はリアルタイムで確認可能で、さらに歯科診療管理ソフトウェアで一元管理されます。



VOICE

課題

サイト障害があっても復旧ができない状況でした。

解決策

RDX カートリッジを使って定期的に事務所外へデータ保管。
自然災害だけでなく、装置の故障、データ破損、ウイルス、人為的ミスがあってもすぐに復旧できるように準備。

課題

古い診療記録の検索は、テープが納められた何箱もの中から、
1 人の患者の診療記録を探さねばならず、この作業に数時間かかることも。

解決策

RDX はディスクだからほしい情報にすぐにアクセス可能。
必要な情報だけを抽出できて、そのまま変更を加えることも可能です。

少人数のスタッフで運営する歯科医院では、IT スタッフはいないのが現状ですが、RDX を導入したことで、事務員の負担は軽減され、私は本来の業務である患者の治療に専念することができるようになりました。

b y . ナリン氏

RDX メディア

320GB ～ 2TB、SSD カートリッジ



RDX ドライブ



外付型



内蔵型

RDX Automation



8 つの RDX ドライブを搭載、
iSCSI 接続のオートメーション

その他

RDX 1U Rackmount kit



RDX 内蔵ドライブを 2 台搭載可能

NAS



Dropbox/RDX 連携 NAS



RDX 搭載 NAS

RDX トランク



RDX メディア
2 個収納用 トランク



RDX メディア
2 個収納用 トランク
(ダイヤル錠付)

＜各社メーカー取扱あり＞

●Tandberg Data ●HP ●IBM ●富士通 ●NEC ●imation ●マクセル

ご購入は

RDX ショップ

検索